

# 石川県の年齢別推計人口 ～令和2年10月1日現在～

石川県県民文化スポーツ部統計情報室  
 人口労働グループ 土田・藤井  
 TEL(076)225-1344 (直通)  
 内線 3750

令和2年10月1日現在の石川県の年齢別推計人口について取りまとめました。  
 概要は以下のとおりです。

〔この数値は、平成27年国勢調査を基準として推計を行ったものであり、令和2年国勢調査結果とは異なります。〕  
 〔また、この数値は外国人を含んでいます。〕

## 1 令和2年10月1日現在推計人口

令和2年10月1日現在推計人口は、1,130,159人(男548,629人、女581,530人)である。

## 2 年齢(5歳階級)別人口

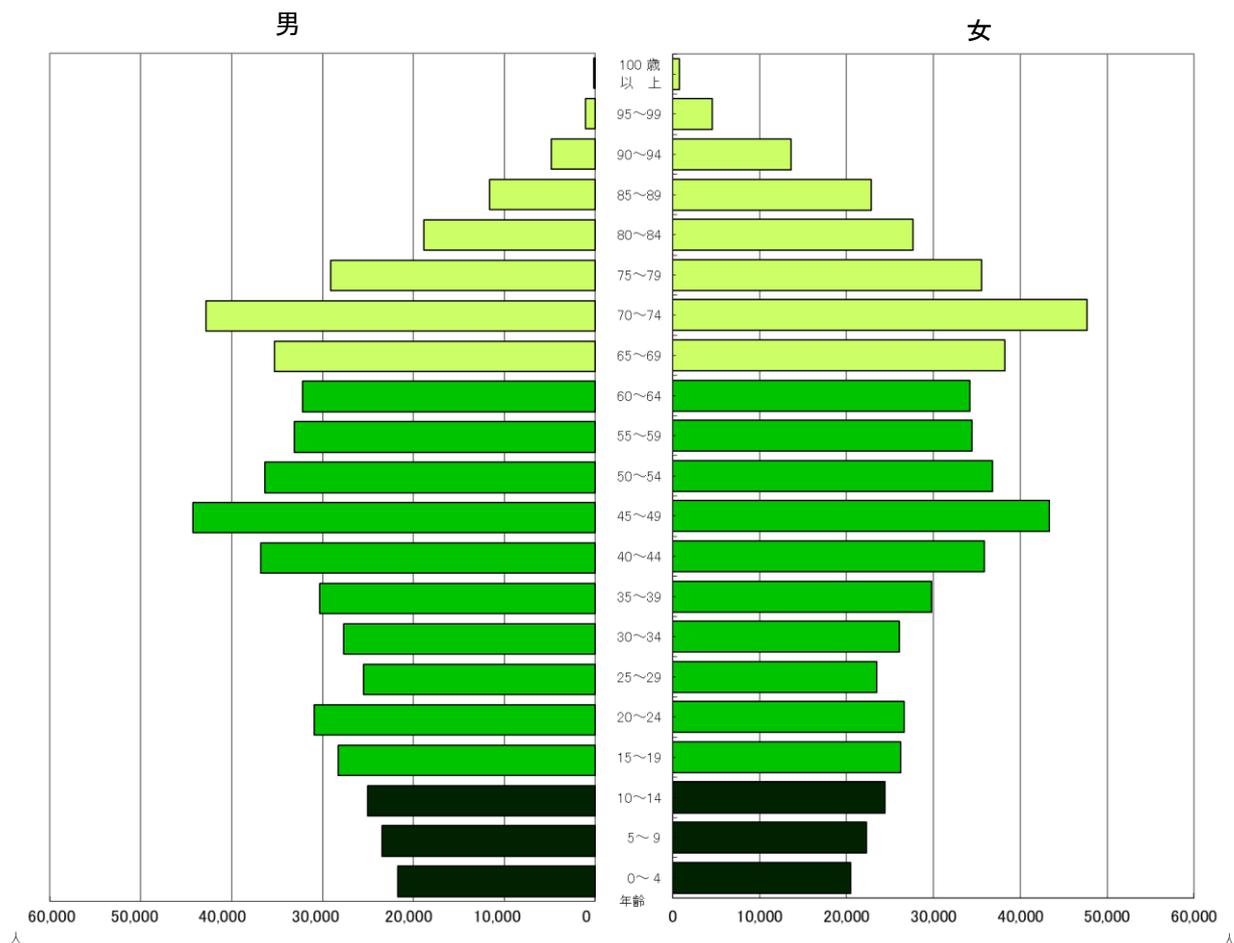
最も多いのは、70～74歳の90,493人

5歳階級別人口では、70～74歳が90,493人と最も多くなっている。

次いで多いのは、45～49歳の87,562人、その次が65～69歳の73,555人となっている。

【図1、参考表1】

図1 年齢(5歳階級)・男女別人口(令和2年10月1日現在推計)



※70～74歳には、第1次ベビーブーム(昭和22～24年生まれ)の人口が含まれている。

また、45～49歳には、第2次ベビーブーム(昭和46～49年生まれ)の人口が含まれている。

### 3 年齢3区分別人口

年少人口及び生産年齢人口の減少、老年人口の増加			
		構成比	前年比
年少人口（0～14歳）	137,371人	（12.3%）	△2,405人（0.2ポイント低下）
生産年齢人口（15～64歳）	642,266人	（57.6%）	△7,147人（0.3ポイント低下）
老年人口（65歳以上）	334,552人	（30.0%）	2,530人（0.4ポイント上昇）

年齢3区分別人口では、年少人口（0～14歳）が137,371人、生産年齢人口（15～64歳）が642,266人、老年人口（65歳以上）が334,552人となっている。

構成比をみると年少人口は12.3%で過去最低、老年人口は30.0%で過去最高となっている。前年に比べ、年少人口が2,405人の減少（0.2ポイントの低下）、生産年齢人口が7,147人の減少（0.3ポイントの低下）、老年人口は2,530人の増加（0.4ポイントの上昇）となっている。

また、老年人口のうち65歳から74歳までは164,048人（構成比14.7%）、75歳以上は170,504人（15.3%）であり、それぞれの老年人口に占める構成比は49.0%、51.0%となっている。

【図2-1、図2-2、参考表1】

図2-1 年齢3区分別人口の構成（令和元年・令和2年）

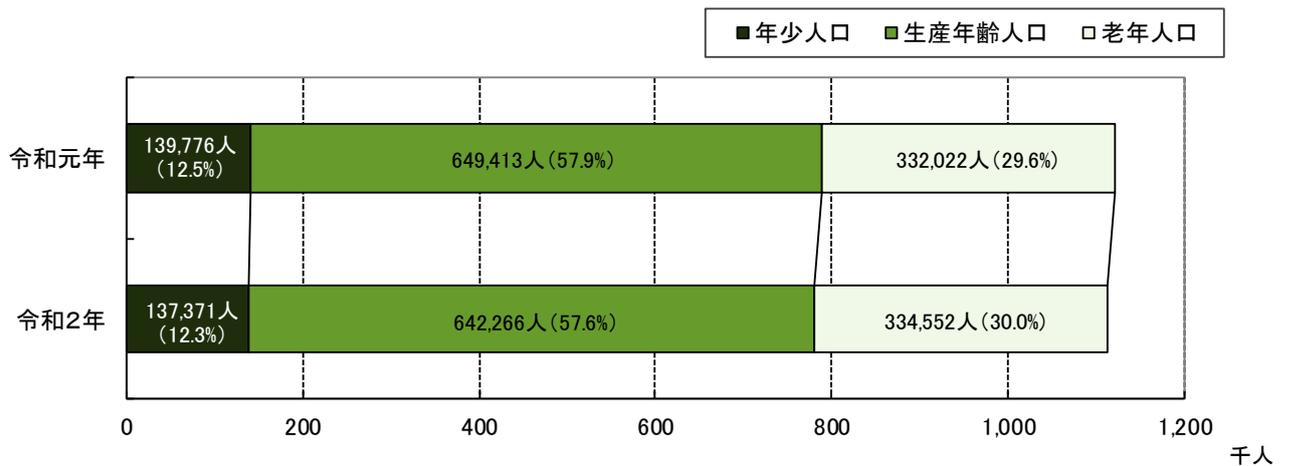
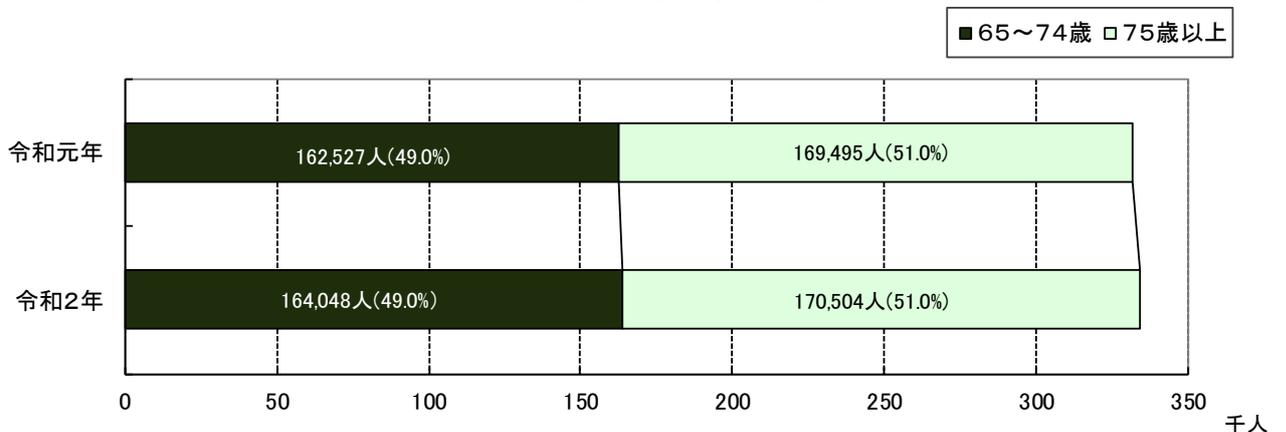


図2-2 老年人口の構成（令和元年・令和2年）



市町別に割合をみると、年少人口では川北町の17.1%、生産年齢人口では野々市市の64.5%、老年人口では珠洲市の52.2%が最も高くなっている。【表1-1、参考表2】

表1-1 年齢3区分別人口割合の順位（令和2年10月1日現在）

区分 順位	年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）	
	市町名	割合（%）	市町名	割合（%）	市町名	割合（%）
1	川北町	17.1	野々市市	64.5	珠洲市	52.2
2	野々市市	14.9	津幡町	61.7	能登町	51.3
3	能美市	14.0	金沢市	60.6	穴水町	50.6
4	白山市	13.8	内灘町	60.2	輪島市	47.0
5	津幡町	13.7	川北町	59.9	志賀町	45.6
15	志賀町	9.0	志賀町	45.4	金沢市	26.9
16	輪島市	7.6	輪島市	45.4	能美市	26.2
17	能登町	7.5	穴水町	42.2	津幡町	24.5
18	珠洲市	7.3	能登町	41.2	川北町	23.0
19	穴水町	7.2	珠洲市	40.5	野々市市	20.6

対前年増減率をみると、石川県全体では年少人口（0～14歳）が1.7%低下、生産年齢人口（15～64歳）が1.1%低下し、老年人口（65歳以上）は0.8%上昇している。

市町別にみると、年少人口はかほく市、生産年齢人口は野々市市、老年人口は野々市市の増加率が最も高くなっている。【表1-2】

表1-2 年齢3区分別人口対前年増減率の順位（令和2年10月1日現在）

区分 順位	年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）	
	市町名	増減率（%）	市町名	増減率（%）	市町名	増減率（%）
1	かほく市	0.5	野々市市	1.1	野々市市	2.0
2	野々市市	0.1	かほく市	0.4	内灘町	1.9
3	白山市	△0.5	川北町	△0.5	津幡町	1.6
4	津幡町	△0.8	白山市	△0.5	白山市	1.5
5	小松市	△1.3	金沢市	△0.6	川北町	1.1
15	志賀町	△4.8	珠洲市	△4.9	中能登町	△0.2
16	能登町	△4.9	志賀町	△5.2	能登町	△0.3
17	珠洲市	△5.5	輪島市	△5.3	羽咋市	△0.4
18	輪島市	△5.5	能登町	△5.8	珠洲市	△0.6
19	宝達志水町	△6.9	穴水町	△5.8	輪島市	△0.9

※増減率＝ $\frac{\text{令和2年各年齢区分別人口} - \text{令和元年各年齢区分別人口}}{\text{令和元年各年齢区分別人口}} \times 100$

#### 4 10年間（平成22年～令和2年）の変化

続く少子高齢化、減少する生産年齢人口

年少人口割合は、県全体で平成22年の13.7%から令和2年の12.3%へと1.4ポイント低下している。市町別にみると野々市市以外の全ての市町で低下し、低下幅が最も大きいのは宝達志水町の3.6ポイントとなっている。

生産年齢人口割合は、県全体ではこの10年間で62.6%から57.6%へと5.0ポイント低下している。市町別にみると全ての市町で低下しており、低下幅が最も大きいのは、能登町の10.1ポイントとなっている。

一方、老年人口割合は、県全体ではこの10年間で23.7%から30.0%へと6.3ポイント上昇している。市町別にみると全ての市町で上昇しており、上昇幅が最も大きいのは、志賀町及び能登町の11.5ポイントとなっている。【表2、図3～6】

表2 年齢3区分別人口割合の推移(平成22年・令和2年)

市町名	年少人口			生産年齢人口			老年人口		
	平成22年 (%)	令和2年 (%)	割合の 増減 (ポイント)	平成22年 (%)	令和2年 (%)	割合の 増減 (ポイント)	平成22年 (%)	令和2年 (%)	割合の 増減 (ポイント)
石川県	13.7	12.3	△ 1.4	62.6	57.6	△ 5.0	23.7	30.0	6.3
金沢市	13.7	12.4	△ 1.3	65.2	60.6	△ 4.6	21.2	26.9	5.7
七尾市	12.0	10.2	△ 1.8	58.4	51.0	△ 7.4	29.6	38.9	9.3
小松市	14.8	13.3	△ 1.5	61.6	57.6	△ 4.0	23.6	29.1	5.5
輪島市	9.6	7.6	△ 2.0	52.3	45.4	△ 6.9	38.1	47.0	8.9
珠洲市	9.3	7.3	△ 2.0	49.6	40.5	△ 9.1	41.1	52.2	11.1
加賀市	12.5	10.7	△ 1.8	59.6	53.2	△ 6.4	27.9	36.1	8.2
羽咋市	11.6	9.5	△ 2.1	57.5	49.5	△ 8.0	30.9	41.0	10.1
かほく市	14.7	13.5	△ 1.2	60.9	56.7	△ 4.2	24.4	29.8	5.4
白山市	15.4	13.8	△ 1.6	63.9	58.1	△ 5.8	20.7	28.1	7.4
能美市	16.6	14.0	△ 2.6	62.6	59.8	△ 2.8	20.8	26.2	5.4
野々市市	14.8	14.9	0.1	69.6	64.5	△ 5.1	15.6	20.6	5.0
川北町	20.5	17.1	△ 3.4	61.5	59.9	△ 1.6	18.0	23.0	5.0
津幡町	16.5	13.7	△ 2.8	65.3	61.7	△ 3.6	18.2	24.5	6.3
内灘町	14.9	12.8	△ 2.1	65.5	60.2	△ 5.3	19.6	27.0	7.4
志賀町	10.8	9.0	△ 1.8	55.1	45.4	△ 9.7	34.1	45.6	11.5
宝達志水町	12.6	9.0	△ 3.6	58.2	51.2	△ 7.0	29.2	39.8	10.6
中能登町	13.2	12.0	△ 1.2	57.1	50.5	△ 6.6	29.7	37.5	7.8
穴水町	8.8	7.2	△ 1.6	51.7	42.2	△ 9.5	39.4	50.6	11.2
能登町	9.0	7.5	△ 1.5	51.3	41.2	△ 10.1	39.8	51.3	11.5

注1 平成22年は国勢調査結果であり、令和2年は県推計人口である。

2 各年10月1日現在

图3 市町別年少人口割合(平成22年・令和2年)

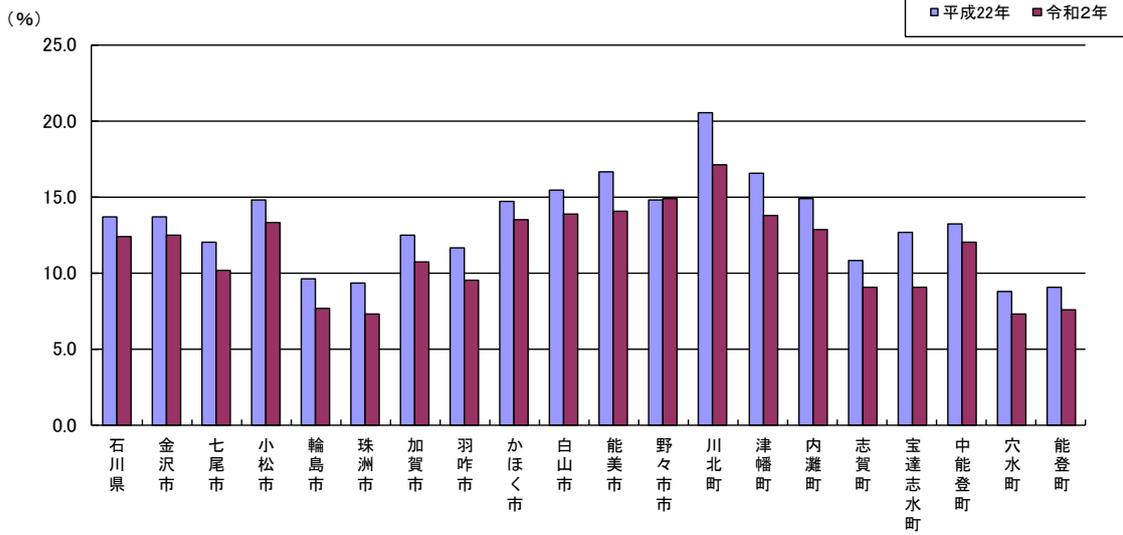


图4 市町別生産年齢人口割合(平成22年・令和2年)

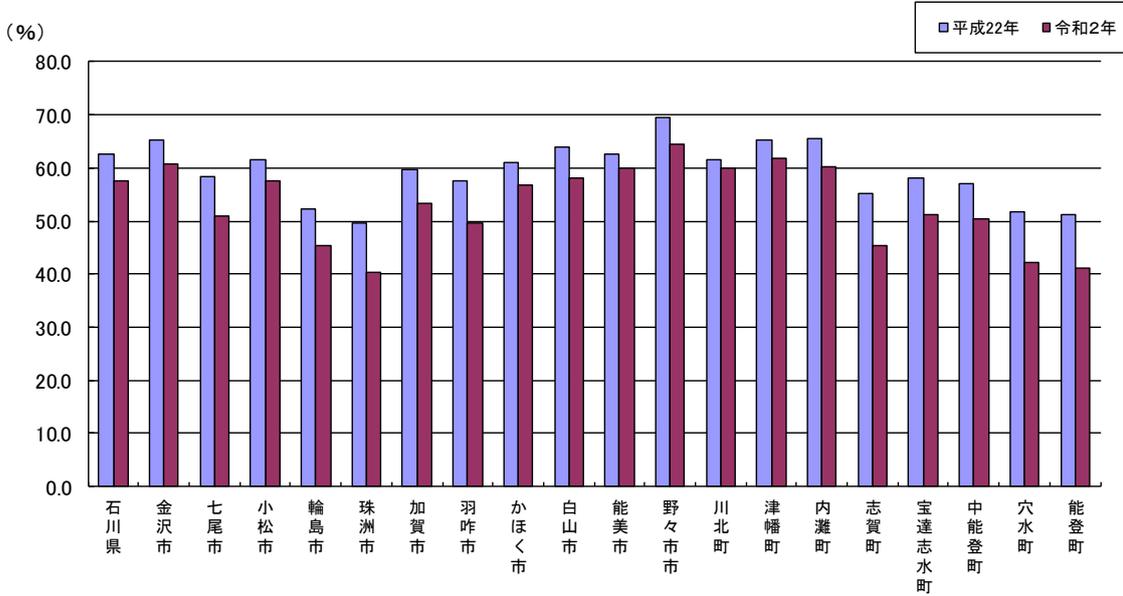


图5 市町別老年人口割合(平成22年・令和2年)

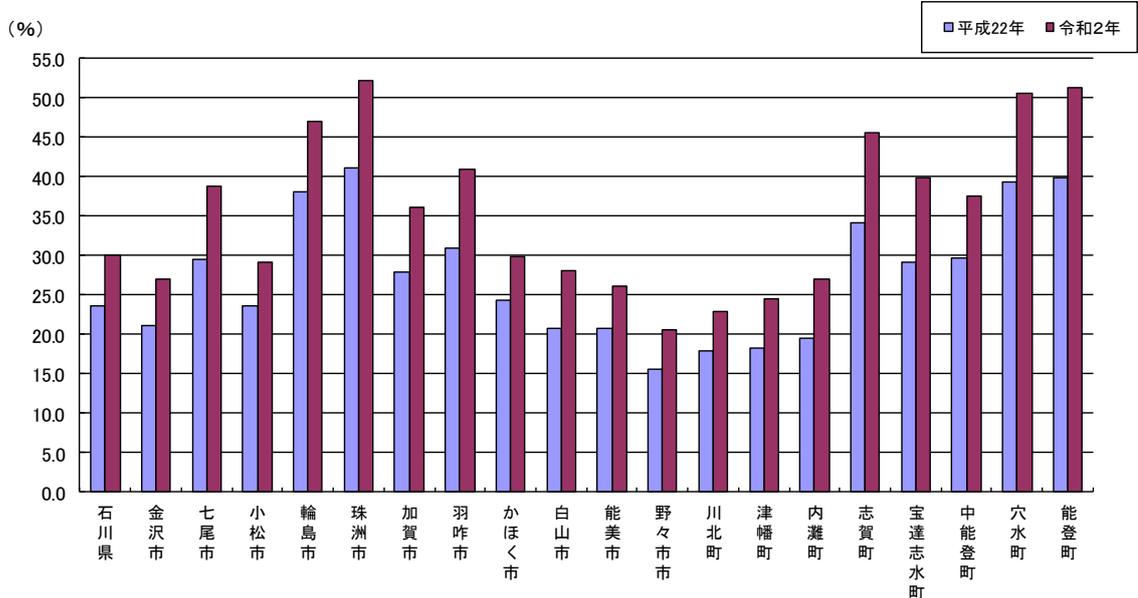
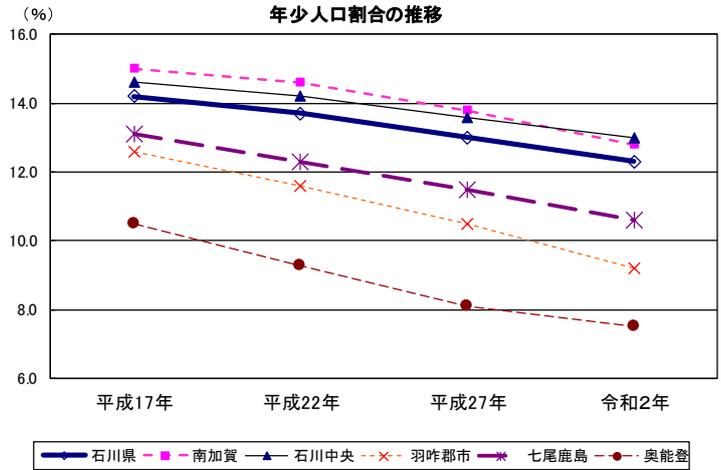


図6 年齢3区分別人口割合(県内地域別)の推移(平成17年～令和2年)

・年少人口割合の推移

(単位：%)

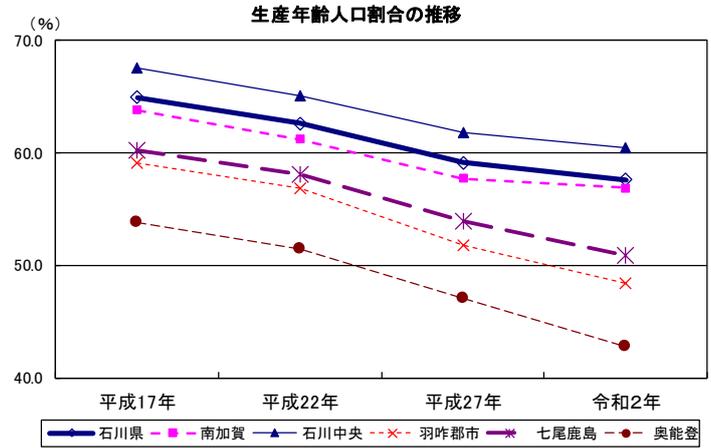
	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
石川県	14.2	13.7	13.0	12.3
南加賀	15.0	14.6	13.8	12.8
石川中央	14.6	14.2	13.6	13.0
羽咋郡市	12.6	11.6	10.5	9.2
七尾鹿島	13.1	12.3	11.5	10.6
奥能登	10.5	9.3	8.1	7.5



・生産年齢人口割合の推移

(単位：%)

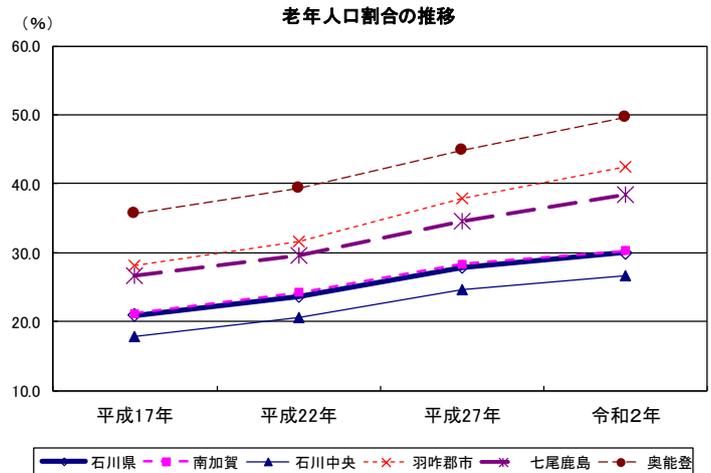
	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
石川県	64.9	62.6	59.1	57.6
南加賀	63.8	61.2	57.7	56.9
石川中央	67.6	65.1	61.8	60.4
羽咋郡市	59.1	56.8	51.8	48.4
七尾鹿島	60.2	58.1	53.9	50.9
奥能登	53.8	51.4	47.1	42.8



・老年人口割合の推移

(単位：%)

	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
石川県	20.9	23.7	27.9	30.0
南加賀	21.2	24.2	28.4	30.3
石川中央	17.8	20.6	24.6	26.6
羽咋郡市	28.2	31.7	37.8	42.4
七尾鹿島	26.7	29.6	34.6	38.5
奥能登	35.7	39.4	44.8	49.7



※区分

- 南加賀：小松市、加賀市、能美市、能美郡
- 石川中央：金沢市、かほく市、白山市、野々市市、河北郡
- 羽咋郡市：羽咋市、羽咋郡
- 七尾鹿島：七尾市、鹿島郡
- 奥能登：輪島市、珠洲市、鳳珠郡

## 5 人口動態

令和元年10月1日から令和2年9月30日までの1年間で、自然動態は出生者数7,855人、死亡者数12,810人で4,955人の減少だった。社会動態は県外からの転入者数21,755人、県外への転出者数23,822人で2,067人の減少だった。【表3～5、参考表4】

※ 社会動態の「県外」には、他県との転出入（外国人を含む。）、国外との転出入及び不詳を含む。

**表3 年次別、要因別人口動態数の推移**

年次	人口増減数	自然動態			社会動態（※）			国勢調査結果による補間補正数
		自然増減数	出生者数	死亡者数	社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数	
平成22年	△ 1,140	△ 1,748	9,724	11,472	△ 461	21,329	21,790	1,069
23	△ 3,151	△ 2,430	9,507	11,937	△ 1,043	20,890	21,933	322
24	△ 3,040	△ 2,375	9,670	12,045	△ 987	20,872	21,859	322
25	△ 3,616	△ 2,962	9,515	12,477	△ 976	21,958	22,934	322
26	△ 3,243	△ 2,949	9,159	12,108	△ 616	21,588	22,204	322
27	△ 2,730	△ 3,205	9,263	12,468	153	22,345	22,192	322
28	△ 3,190	△ 3,278	9,052	12,330	88	23,110	23,022	-
29	△ 3,371	△ 3,858	8,773	12,631	487	23,717	23,230	-
30	△ 4,482	△ 4,257	8,485	12,742	△ 225	23,886	24,111	-
令和元年	△ 5,784	△ 4,766	8,048	12,814	△ 1,018	24,786	25,804	-
2	△ 7,022	△ 4,955	7,855	12,810	△ 2,067	21,755	23,822	-

（注） 各年の人口増減数は、前年10月から当年9月までの自然動態、社会動態及び国勢調査結果による補間補正数の計である。

**表4 過去1年間の自然動態の順位(令和元年10月1日～令和2年9月30日)**

順位	増 加				減 少			
	増加数 (人)		増加率 (%)		減少数 (人)		減少率 (%)	
1	野々市市	237	野々市市	0.42	金沢市	△ 1,185	穴水町	△ 1.86
2					加賀市	△ 577	能登町	△ 1.69
3					七尾市	△ 548	輪島市	△ 1.68
4					輪島市	△ 417	珠洲市	△ 1.51
5					小松市	△ 320	宝達志水町	△ 1.38

（注） 令和元年10月から令和2年9月までの1年間の計である。

**表5 過去1年間の社会動態の順位(令和元年10月1日～令和2年9月30日)**

順位	増 加				減 少			
	増加数 (人)		増加率 (%)		減少数 (人)		減少率 (%)	
1	野々市市	379	かほく市	0.73	七尾市	△ 429	輪島市	△ 1.62
2	白山市	312	野々市市	0.67	加賀市	△ 428	志賀町	△ 1.39
3	かほく市	255	白山市	0.28	輪島市	△ 402	珠洲市	△ 1.26
4	津幡町	58	津幡町	0.16	小松市	△ 344	能登町	△ 1.26
5					志賀町	△ 262	穴水町	△ 1.01

（注） 令和元年10月から令和2年9月までの1年間の計である。